

平成19年度 第2回山梨県考古博物館協議会議事録

開催日時：平成20年3月5日（水）午後1時30分～3時

開催場所：考古博物館

出席者：古屋委員、大隅委員、椎名委員、谷口委員、斉藤委員、吉原委員、福田委員、
神楽委員、長谷川委員、

事務局：館長、副館長、次長、学芸課長、学芸課員、総務課員

（協議会の成立）

山梨県附属機関の設置に関する条例第6条第2項の規定により、出席委員が定足数に達したため協議会は成立。（15名中9名出席、委任状提出5名）

（議事）

- （1）平成19年度考古博物館 経過事業について
- （2）平成20年度考古博物館 予定事業について

（質疑等）

（委員）

- ・考古博物館は地味なジャンルの専門館であるが、館長をはじめ全職員の努力の様子が伺える。着実に県内、周辺地域からの理解が高まり、ナスカ展を通じて遠くからの人の道も開けたと感じている。

（委員）

- ・いろいろなアイデアを凝らして、人を集めていると感じている。考古博物館協力会のボランティアも考古博物館の活動を支えていることをご理解願いたい。

（事務局）

- ・考古博物館協力会のボランティアの皆様には、考古博物館の活動において陰の力となり支えて頂いた。

（委員）

- ・ポスター、チラシ等を送っていただくと周りに広報ができる。

（事務局）

- ・縄文王国山梨特別講演会のパンフレットをお配りして周知しようと考えていた。これからも周知方法を考えていきたい。

（委員）

- ・考古博物館には、土器のレプリカ、ナウマン象の歯など、素晴らしいものがある。

（事務局）

- ・ナウマン象の歯は複製品であり、山梨市兄川から発見された実物は現地の八幡小学校に保管されている。その他出土品は収蔵庫に保管しており、その時々に応じて展示している。

(委員)

- ・『わたしたちの研究室』に応募された小学生の作品は、目のつけどころが良い。もっと広めたい。夏休み前に前年度の成果・実物を展示することができないか。作業室も欲しい。

(事務局)

- ・応募作品は返してしまったが優秀賞は借りる交渉をしている。次に募集をかける時は、作品を1年間借りたいということ、あらかじめ言うことにする。

(委員)

- ・わたしたちの研究室は年々活性化し、内容が濃くなってきている。子ども達の科学する芽を引き出すことに役立っている。

(委員)

- ・子どもの作品でも、専門家のように素晴らしい。小さい時から関心を持つことが良い。親、先生の取り組みに恵まれた作品が選ばれている。

(委員)

- ・『わたしたちの研究室』の発表会、表彰式での子ども達の態度がとても立派だった。

(委員)

- ・新しい学習指導要領では、従来の「課題追求能力」に加えて「学んだことを表現したり発表する能力」が求められる。『私たちの研究室』は、まさにこのニーズに込んでいる。発表という点が重要であり、参加者の裾野を広げることで学校現場にも受け入れられると思う。今回の指導要領改訂は、考古博物館にとってのチャンスでもある。

(委員)

- ・『わたしたちの研究室』で表彰された子ども達を指導している先生は、以前、考古博物館に在席していた人が学校現場に戻って指導している人だった。指導者のきっかけづくりが大切。

(委員)

- ・考古博物館では、いろいろな活動をきちんとやっているが、素晴らしい実績はナスカ展の成功と波及効果があったから。これからも良い特別展の実施を望みたい。

(委員)

- ・史跡文化財セミナーの具体的な事業実施方法を教えて欲しい。

(事務局)

- ・現地集合、現地解散で、10時から15時位の日程で実施している。担当が実際に歩いてみて無理のない計画を立てている。

(委員)

- ・事業の周知はどのようにしているのか。

(事務局)

- ・ 県の広報。HP。チラシ、各放送局などで実施している。

(委員)

- ・ 以前、参加した『風土記の丘でハイキング』がとても良かった。公園内の花や植物と遺跡を案内してもらった。

(事務局)

- ・ 20年度事業の『中道往還と風土記の丘』もそのような形をとりたい。また『埋められた財宝展と風土記の丘』も同様に検討したい。

(委員)

- ・ 文学館にも言ったが、一覧表を作り博物館同士が連絡をとりあったらどうだろうか。

(委員)

- ・ PRをどのようにするか。HPだけではなかなか多くの人目にふれないのではないか。例えば、NHKの『イベント情報』に出演すると、多くの人が目にすると思う。

(委員)

- ・ ナスカ展の時、甲府駅からバスを出していたが、あまり乗客がなかった。臨時バスは周知が難しいので、恒常的なバス路線を確保して欲しい。
例えば、最近、地元等の働きかけで中町の商科専門学校までバス路線を延長したという事実がある。この路線をさらに考古博物館まで伸ばすことはできないだろうか。

(事務局)

- ・ 情報収集して検討する。

(委員)

- ・ 次回の特別展に向けて、展示の仕方、PR方法を提案。夏の間、秋の特別展につながるような展示をして、秋に来館してもらえるように工夫したらどうか。

(委員)

- ・ リニア開通を見越して、この地域の見通しやビジョンは何かあるのでしょうか。

(委員)

- ・ リニア予定路線上の遺跡については、これからも適切に調査、保存等の対応をするべき。